



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く 10時～16時
 Web URL：<http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

10周年記念フォーラム

谷戸の昔、今、そして未来へ

～暮らしの場から多世代市民の憩いの場、体験の場へ～

日時 2016年3月19日(土)

会場 鎌倉生涯学習センター (ホールにて)

第一部 挨拶～思い出を語る(来賓、子どもから大人たちの声) 13:00～13:45

第二部 ビデオ上映～私たちの活動(はじまり、そして今) 14:00～14:45

第三部 座談会～協働を深める～ 15:00～16:00

コーディネーター 志村直愛 (東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授)

鎌倉市都市整備部 部長 小磯一彦
 鎌倉市公園協会常務理事 土屋志郎
 当会理事長 相川明子
 当会事務局長 黒川美加

谷戸の食材を
 ご用意します

祝賀会 17:00～19:00

(参加費:1000円 鎌倉生涯学習センター和室にて)

ご来場いただいた方へ、「谷戸土産」をご用意しています。

みなさんで、10周年を祝いましょう!

2004年、山崎の谷戸の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するために、鎌倉市と協働で当会を立ち上げ、現在、鎌倉市公園協会と協働で管理運営を行っています。当会の活動を振り返りつつ、鎌倉中央公園全面開園の10周年を祝い、NPOによる谷戸保全の未来を考えたいと思いま

もくじ

☆各班からのお知らせ→2・3p
 ☆谷戸の自然だより→4p
 ☆谷戸往来→p5・6
 ☆谷戸の体験学習→6・7p
 ☆1～3月の日程表(裏表紙)

各班からのお知らせ



田んぼ班

★1/10(日)、17(日) 粃殻くん炭・堆肥切り返し
★24(日)、31(日) 粃殻くん炭・堆肥撒き

収穫したもち米とうるち米は、それぞれ粃干し、粃すり、精米の工程を経て、谷戸まつりでは、もちとおにぎりの頒布に提供できました。お米はちょっと小粒ですが、おいしいと好評でした。12月から苗床の準備、もみ殻くん炭など次の収穫に向けた準備が始まっています。



12/13 落ち葉かき



畑班

★1/10(日) 荒起こし・畑の整備
★17(日) 麦踏み・堆肥場の整備

★24(日) 小麦の草取り・土寄せ ★31(日) 荒起こし・耕し

谷戸の紅葉は、見事な配色で幕を閉じ、落ち葉がたくさん積もりました。この落ち葉をかき集めて、大切な堆肥作りが始まっています。体験学習に訪れる子どもたちや鎌倉レンジャーズなど、多くの参加者のおかげで、たくさんの堆肥が熟成しそうです。



11/22 さといもの掘り起こし



雑木林管理班

★1/10(日)、24(日) 雑木林の調査・測定
★17(日) 竹の伐採 ★31(日) 木障切り



11/22 雑木林の除間伐

今シーズンの作業に先だち、我々が受け持つ地域内を確認したところ、斜面に生えているクヌギが、根ごと浮き上がっているものがありました。谷戸の樹木は年1～3%程度成長していますので、この木は自重に耐えられなくなったのだと思います。斜面の木々に限らず、雑木林の木々は適切な年数で伐採し、萌芽更新を促すことも必要だと感じました。来年1月には毎木調査を実施し、木々の成長状況を確認する予定です。



農芸班

★2/17(水) 味噌作り

炭焼き小屋に天日干しされた大根の風景の美しさに見入ってしまいました。見逃してしまった方は来年こそ、この谷戸の風物詩に注目してみてください。12/22 寒風にさらされた大根を干し場から下ろして「たくわん漬け」作業が始まりました。手間と時間をかけて産物をおいしくしていきます。

2/17 谷戸伝統のたのくろ豆を使って「味噌作り」をします。ほのかに甘みのある手作り味噌は格別です。



12/22 たくわん漬け



自然遊び班

11/22(日)に行われた父と子の里山体験「伐って、割って、薪づくり」では、落葉樹の中でも硬いコナラの木を、ノコギリを使って倒してもらいました。年輪を数えると、樹齢50年以上。その木をみんなで枝払いし、^{なた}鉋を使って小割りの薪を作りました。子どもたちの熱心さに大人たちは驚いていました。落ち葉が舞い散り、明るい雑木林で、父も子もいい汗をかきました。



12/13(日)の里山探検隊では、子どもたちが「やきいも」と「谷戸しごと」をしました。「やきいも」は畑で火を十分に焚き、その熾火(おきび)でじっくりと焼き上げます。焼きあがったさつまいものほっくりと甘い味わいに感嘆の声が上がりました。「谷戸しごと」は、堆肥運搬と切り替えです。重い堆肥でもバケツリレーで次々に手渡しすると、あっという間に運び終えました。その後はたのくろ豆の殻出しです。「谷戸しごと」を通して、いろいろな人が力を合わせて、さまざまな作業に携わっていることがわかりました。子どもたちの感想>やきいもがとてもおいしくてびっくりしました。豆が入っているかどうか見分ける作業が大変でした。手が冷たくなったけど、たのしかったです。(前園 宙) 雨ばかりだったけれどやきいもができてよかった。小さい芋でも甘くておいしかったのでびっくりした。とてもたのしかったです。(鈴木 陽)



んぶしごとをしたよ。いもおいしかった。(橋本 錬) 火があつ かった。

父と子の里山体験

4歳～小学生までの親子対象 定員先着10組
10時～14時 参加費：500円(会員以外の方)

- ★ 2/14(日)「伐った木で、しいたけ原木作り」※2月1日より受付
- ★ 3/13(日)「竹でお椀と箸作り」※3月1日より受付



生態系保全班

★1/6(水) 野鳥調査 ★24(日) アシ原の野鳥を探そう

引き続き、湿地のカナムグラをとり続けています。夏のように熱くもなく、秋のように花粉に悩まされることもなく、気持ちよく除去できる絶好の季節です。カナムグラのツルをはがした後からは、ノイバラの赤い実が出てきたりします。そんなときは心が和みます。

しかし、それ以上にセイタカアワダチソウの新芽がたくさん見つかり、カナムグラを取った分、セイタカアワダチソウが育ちすぎてしまうのではと心配です。



12/9 カナムグラの除去作業



植物育成班

★1/27(水) オギ原の刈り込み作業



12/16 野草の種取り(ホトトギス)

野草観察、樹木観察は、今の季節から始めるのが一番です。それは種類が少なくなるからです。野草が増えると、樹木に葉が生い茂り、見つけるのが難しいのです。野草畑の手入れも雑草が少ないと、やりやすくなります。寒い中でも陽だまりには、タチツボスミレやキラソウなどが咲き始めます。

今年も、元気なオギ原を保つために、新芽が出る前に手入れをしていきたいと思います。

谷戸の自然だより

～生態系から見た、里山の手入れ 畑その2～

④畑を耕している場所

土が露出して草はありませんが、自然界には少ない特殊な環境です。畑の土を耕して堆肥や肥料を入れることで、本来の自然にはない、新しい生態系が生まれます。畑があることで里山の自然が豊かになるのです。

⑤畑の雑草も貴重品

畑の雑草も里山生物の1つです。中でもカラスビシャク、イヌビユなどの雑草は、長年畑を耕した場所にしか見られません。植物育成班で植物調査をすると、カラスビシャクやイヌビユは、畑を耕しているわずかな部分にしかありません。街の中に生える雑草と畑の雑草は、同じものもありますが、谷戸の畑以外では珍しくなった植物もあるのです。田んぼの上の畑には、これらの畑の雑草がよく残されている貴重な場所です。また、近年、ホトケノザが減って、ヒメオドリコソウが増えてきたのも、畑を耕している場所が減ってきたことが原因の1つです。春の七草のナズナも少なくなりましたし、ハハコグサがなくなってしまったのも、畑が減ったせいかもしれません。20～30年前、公園化される前の谷戸は、今より畑がたくさんありました。開園前に比べ、畑の環境が激減しているのです。公園化した谷戸で、里山の環境を守るためには、土を耕し、堆肥を入れていく、従来の農法を続けることが不可欠でしょう。

⑥耕すことが里山の生きものを育てる

畑を耕すことでミミズが出てきて、モズやムクドリをはじめとした野鳥の餌になったり、ほかの生きものを養うことにもなっています。最近、谷戸にムクドリの群れが来なくなったのも畑が減ったからだだと思います。現状では、里山生物にとって畑の面積が不足気味と感じます。さらに、地中に巣を作るハチの仲間やエンマコオロギなど、一部の昆虫にとって、草が生えない畑が生息に欠かせない場所になっています。

山崎の谷戸に隣接する台峯緑地では、畑を耕すのをやめて数年したら、エンマコオロギが絶滅寸前になってしまいました。広町緑地でも同じ現象を経験しています。毎年、生態系保全班で実施している「夜に鳴く虫の観察会」では、炭焼き小屋の上にある畑や、田んぼの上の畑で、多種類のコオロギ類を観察しており、その中には住宅地周辺では見られない、クマコオロギが多数見つかりました。緑の中に畑のような裸地が点在している景観が、里山の生きものを豊かにしているのです。同じ畑でも、谷戸の畑は“値千金の価値”があるのです。

(株)東芝「社会貢献ボランティア活動資金プログラム」に受賞しました

当会の公益性、継続性が評価され、今回まで本プログラムから、支援金2回、中古パソコン支援2回受賞しました。



谷戸往来 谷戸往来 谷戸往来

サトイモとどろんこ

11/4(水)、かまくら子育て支援グループ懇談会事業に32組の親子が参加。さといもを素手で掘り出して子どもたちが洗った芋をその場で蒸かして食べました。土に触れ、水に触れ、草木や虫に触れ、紅葉が始まった谷戸でのんびりとした半日を過ごしていました。



「ほくほくしてる！」
「あまい！」「味がある！」

鎌倉市職員市民協働研修 11/18(水)

今年から鎌倉市地域のつながり推進課により開催され、当会にも5名の若手職員が来訪しました。日ごろの活動の話も交えて和やかに作業をしました。今後の協働推進に向けて、このつながりを大切にしていきたいと思います。【感想】★市民活動団体の重要性を再認識し、活動を後世に繋げていくことの難しさ等の課題についても大変勉強になりました。(環境保全課 原拓也)★このような市民活動を市政に反映し、一体となって行政課題に取り組むことの必要性を再認識しました。(交通計画課 浦山友晃)★今残されている風景は、互い(市民と行政)の歩み寄りの賜物なのだと実感しました。会員のみなさまのご指導やお話は、短い中でも心温まるひとときでした。(保育課・稲瀬川保育園 五十嵐香)



参加者のみなさん

神奈川県職員研修

県職員のNPO団体派遣研修(10・11月、全5回)も今年で3回目。志望者が増えて、研修が発展していくことを期待します。【感想】まちづくり・環境保全のあり方として、よいモデルを知ることができ、住民参加型の事業運営について大いに参考になりました。体験学習の場を提供でき、多世代交流を図る事業としても期待できます。(栗原高広)

NGO「PHD」来訪

11/15(土)、日本で1年間、有機農業や保健衛生などを学ぶ研修生を受け入れ、アジアの草の根の援助を続けているNGOが3人の研修生と来訪し、当会会員と交流し、田んぼの始末などの作業をやらしてもらいました。【感想】★たくさんたべさせてくれてほんとうにおいしかったです。(ゾン/インドネシア)★しぜんでのうぎょうするみなさんのこともわかりました。(サンティダエー/ミャンマー)★いろいろお世話になりました。(カンチ・マヤ・タマン/ネパール)



ヨイショ、ヨイショ

寄付いただきました

有効に使わせていただきます。(敬省略)・伊藤紀子・黒谷秀夫・河合絢子・野田真紀子・磯尾佳代子・広田智香子・角田真理・市川由美子・安田紀代子・上江洲慎・阿部貴子

東京シニア自然大学講座 11/25(水)

日本環境教育フォーラム主催で19名が参加。冷雨の中、たのくろ豆の殻出し、谷戸散策のあと、里山保全活動についての質疑応答が熱心に行われました。【感想】★都市型の里山として生態系を持続するための管理のご苦労を感じた。(柳幹夫)★作業を大いに楽しみました。鎌倉市、公園協会、NPO法人3者の円滑運営継続を大いに期待します。(奥島和敏)

農作物を 寄付しました

今年も、新米、さつまいもを、老人介護施設、青空自主保育、深沢地区社協などに寄付をし、喜んでいただきました。

人気の正月飾り作り



谷戸まつり開催 11/29 (日)

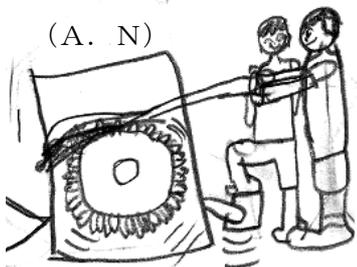
今年も多くの方が来園され、炊き出し、正月飾り作り、竹の工作、新米や小麦の頒布など、どれも好評でした。近隣町内会のみなさまにはご協力いただき、ありがとうございました。【梶原山町内会の方の感想】★若い方などいろいろな年代の方と一緒に仕事できて楽しかったです。★ねかせたサツマイモは甘く 谷戸汁に入っていたのはさらにおいしかったです。

～ 富士塚小学校5年 ～ 「谷戸田での米作り」

10/30 脱穀他

足ぶみだっこくきはふむのが楽しかったです。千ばこきはプチプチとれたのがきもちよかったです。(K. M)

お米をいれたら、手もひっぱられそうになりました。(A. H)

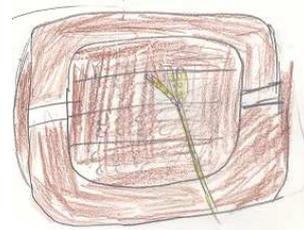


(A. N)

(S. M)

最初、2組はかかしを田んぼからぬいで、はさみで切りました。脱こくでとれたお米はバケツ2はいでした (C. H)

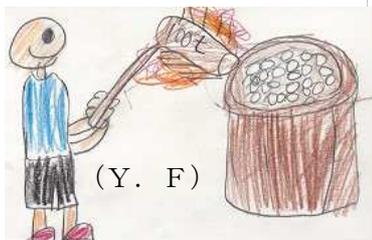
きかいは、とまると、もう一度うごかすのがむずかしかったです。(M. T)



(S. H)

こいでだっこくをまわすのはかんたんだけど、もって米をとるのがむずかしかったです。(A. M)

12/7 収穫祭

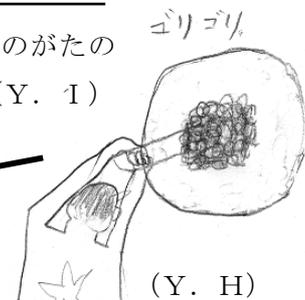


(Y. F)



谷戸なべ係だったので野菜をきるのがたのしかったです。うまくなりました。(Y. I)

(きなこ作りを) 2人で力をあわせてカブよくやりました。手がまっかになっていました。でも楽しかったです。(M. M)



(Y. H)

(もちつき) みんなが「いーち、にーい」とか言ってくれて、すごく気合が入りました。(K. T)

肥料をバケツに入れて運んだり、落ち葉を集めたりしてたいへんでした。(M. A)

～ 鎌倉市教育支援教室「ひだまり」～ 「昔ながらの畑」

11/12 収穫祭

料理とは効率重視であることがわかった。ふかしただけなのに、芋本来の美味しさが最大限に生かされていて、食べたときに幸せいっぱいでした。(N. M)

うどんをのばす時に力の入れ方のコントロールがむずかしかった。うどんを踏むのが楽しかった。久しぶりに自然で遊べたのでよかった。(A. S)

12/2 落ち葉かき

いつも作業している人のたいへんさがわかった。(落ち葉を) 集めたときの達成感がよかった。(K. K)

いつもと比べて一つだけのさぎょうだったので、わりあいはかどった。(N. N)

作業は大変だったけど、先生と友達のやりとりが面白く笑わせてもらった。(R. K)